

2016 知的財産報告書
Intellectual Property Report, 2016



C o n t e n t s

<i>1</i>	ごあいさつ	1
<i>2</i>	2016年の知的財産活動の重点課題	2
<i>3</i>	知的財産の事業への貢献(具体例)	2
<i>4</i>	社外表彰	3
	資料	6
	会社概要	6

1 ごあいさつ

当社グループを取り巻く事業環境は、国際関係・政治・経済・環境問題・技術革新といったあらゆる面で
大転換期にあり、社会構造や消費者意識も大きく変化していると認識しております。こうした中、当社グ
ループは企業理念を事業活動の基盤とし、経営の最終目標である「真のグローバル企業」、「業界において
全てに『断トツ』」の達成に向け、「Lean & Strategic」（足元では無駄なく、中長期的な戦略課題とバラン
ス）と「グループ・グローバル最適」という基本姿勢を堅持し、「SBU（戦略的事業ユニット）組織体制」及び
「中期経営計画」を改革ツールに、経営改革を継続してまいります。

さらに、「グローバル企業文化の育成」「グローバル経営人材の育成」「グローバル経営体制の整備」の3
点を重点課題として事業運営に取り組んでまいります。

次に当社グループの知的財産活動についてご説明いたします。

現在、知財界ではグローバルでさまざまな制度改革が起こっています。その中で、当社グループは、知的
財産を企業経営を支える重要な経営資源として位置付けており、企業価値の最大化に貢献する知的財産
活動の基本方針として、次の2つの取り組みを掲げております。

1. 当社グループ・グローバルの知財を繋ぐガバナンス体制の強化
2. イノベーション力・ブランド力向上に貢献する知財活用マネジメント

この基本方針に基づき、今後は商品単品や技術単体のみならず、サービス、ソリューションも含めた事業
そのものを新たな知的財産の仕組みの中で保護し活用できるよう、より一層先進的な取り組みを進め
てまいります。

本報告書を通じて、皆さまに当社グループの知的財産活動に対するご理解を更に深めて頂ければ幸い
です。

株式会社ブリヂストン
取締役 代表執行役 CEO
兼 取締役会長
津谷 正明



2 2016年の知的財産活動の重点課題

当社の知的財産本部では、真に経営に貢献する知財を目指すため、以下の2点を2016年の重点課題として活動してまいります。

(1) 当社グループ・グローバルの知財を繋ぐガバナンス体制の強化

グループ・グローバル全体での知的財産活動を、事業・技術・イノベーションに係る全社戦略と、より整合性のあるものにすべく、グループでの知的財産ガバナンスを強化いたします。

国内外の知的財産分野の新たな動向を踏まえ、知的財産リスクの最小化と、自社権利活用の最大化を推進いたします。他社知的財産権への侵害の未然防止を徹底し、自社の知的財産権は断固とした権利行使をし、知財尊重の姿勢を堅持いたします。

また、保有知財の適切なポートフォリオ管理を着実に実行し、権利の最適活用を目指します。

(2) イノベーション力・ブランド力向上に貢献する知財活用マネジメント

新事業戦略、ビジネスモデルを支える包括的な知的財産活動を推進し、質を意識した出願・権利化を更に促進いたします。周辺情報の収集・解析による効率的な知的財産情報の発信と戦略提案を行うことに努め、イノベーションの促進に寄与してまいります。

また、営業秘密管理体制の浸透を継続推進し、情報管理の対策強化を実施すると共に、高リスク地域での優先対策を強化いたします。

3 知的財産の事業への貢献（具体例）

ここでは、2015年の知的財産活動の具体例として、「グアユール」由来の天然ゴムを使用したタイヤを、知的財産活動の事例としてご紹介いたします。

「グアユール」由来の天然ゴムを使用したタイヤ

当社グループは、タイヤの主原料であり今後も需要拡大が見込まれる天然ゴムについて、現在天然ゴム資源の大部分を担う「パラゴムノキ」由来の天然ゴムの安定供給にかかる取り組みと、原材料の多様化を目的とした代替資源の研究を進めています。この研究成果として自社技術で生産された「グアユール¹⁾」由来の天然ゴムを使用した最初のタイヤが完成しました。今回作成したタイヤに使用した「グアユール」由来

1) 「グアユール」とは、その組織の中にゴム成分を含む米国南西部からメキシコ北部の乾燥地帯が原産の低木です。

の天然ゴムは、アリゾナ州にあるグアユール研究施設を中心に、栽培から抽出精製までのすべての過程に当社グループの技術を適用することによって得られたものです。

これにより「再生可能資源の拡充・多様化」に向け、大きな一歩を踏み出しました。

当社グループは、米国アリゾナ州エロイ市に114ヘクタール（東京ドーム約25個分）の農地を確保し「グアユール」の品種改良や栽培技術の開発を目的とした研究農場を完成させ、2013年9月より研究活動を開始しました。また2014年9月には同州メサ市に「グアユール」の加工研究所「Biorubber Process Research Center（以下、BPRC）」を開設し、天然ゴムの試験生産が可能となりました。米国、日本、欧州の各技術センターにおいてBPRCで生産された「グアユール」由来の天然ゴムの性能評価、タイヤ生産と評価を行うことで、今回のタイヤが完成しました。

当社は、「グアユール」に関連する特許を日本・米国・欧州において2015年末時点で約40件出願しております。

今後も、「グアユール」の栽培からタイヤ開発まで一貫した研究開発に当社グループ全体で取り組んでいきます。

□ 米国アリゾナ州にあるグアユール研究農場



4 社外表彰

Top 100 グローバル・イノベーター 2015 受賞

当社は、トムソン・ロイターが主催する「Top100 グローバル・イノベーター 2015」を受賞いたしました。Top100 グローバル・イノベーターは、2011年に創設され、特許データを基に知財動向を分析し、世界の革新企業トップ100を選出し表彰するものです。

Top100 グローバル・イノベーターは、4つの評価軸を基本としています。「特許数」、「成功率」、「グローバル性」、「引用における特許の影響力」（分析対象は過去5年間。「グローバル性」のみ過去3年間）です。特許データベース「Derwent World Patents Index（DWPI）」や知財調査・分析プラットフォーム「Thomson Innovation」などから抽出された厳格かつ客観的なデータ、トムソン・ロイターの独自の評価基準に基づき、革新的であること、知的財産権保護の遵守に努めている企業であることが認められました。当社グループは、知的財産を企業経営を支える重要な経営資源として位置付けており、今後も企業価値の最大化に貢献する知的財産活動を推進してまいります。

□ Top100 グローバル・イノベーター 2015 受賞 授賞式



右：トムソン・ロイター・プロフェッショナル株式会社 取締役 日本営業統括部長 棚橋佳子さま
左：当社知的財産本部フェロー 峯木英治

グッドデザイン賞受賞

当社グループの6つの商品が、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する2015年度「グッドデザイン賞²⁾」を受賞いたしました。「ECOPIA EP500 ologic」は「グッドデザイン・ベスト100³⁾」にも選出されました。当社グループは、これまで191件のグッドデザイン賞を受賞しており、1997年からは19年連続で受賞しております。

当社グループは、知的財産権を効果的に活用することで、独自の優れた技術やデザイン等を知的財産として保護し、当社グループのブランド価値の維持・向上に努めてまいります。

2) 「グッドデザイン賞」は、1957年に通商産業省（現経済産業省）によって設立された「グッドデザイン商品選定制度」を継承し、1998年より公益財団法人日本デザイン振興会が主催する総合的なデザインの推奨制度です。

3) グッドデザイン・ベスト100は、2015年度グッドデザイン賞受賞対象の中でも、成熟分野での高度なものづくり、成長分野におけるデザインの可能性などの観点において、明日を切り拓く力をもつ、未来を示唆するデザインとして、審査委員会により特に高い評価を得た100件です。

□ 当社グループの2015年度「グッドデザイン賞」受賞商品



ECOPIA EP500 ologic

乗用車用ラジアルタイヤ
「ECOPIA EP500 ologic」

「ologic」とは、タイヤサイズをこれまでに無かった狭幅・大径化することで、低燃費と安全性を高次元で両立する当社の独自技術です。「ECOPIA EP500 ologic」は、本技術を搭載しています。



REGNO GR-XI

REGNO GRV II

乗用車用ラジアルタイヤ
「REGNO GR-XI」「REGNO GRV II」

タイヤに求められる諸性能を高次元でバランスさせ、滑らかな路面から荒れた路面まで「路面ごと」に異なる「気になりやすいノイズ」を低減する新技術を搭載し、優れた静粛性を実現しています。



らく楽アダプター

樹脂製アダプター継手
「らく楽アダプター」

給水給湯用継手の多くは従来金属製でしたが、「らく楽アダプター」では、全て（または一部を）金属から樹脂に置き換えることに成功しました。本来、水栓器具に接続するネジがある継手は樹脂化できないという業界の常識に挑戦し、試行錯誤を繰り返し製品化いたしました。



ASSISTAUNI

電動アシスト自転車
「アシスタユニ」

「小さく、軽く、シンプル」にこだわりました。操作しやすく便利な機能パーツを充実した「アシスタユニ プレミア」、必要最低限な装備で移動することに特化した「アシスタユニ」の2モデルをラインナップしています。



Albelt

電動アシスト自転車
「アルベルトe」

通学に最適な電動アシスト自転車です。前輪モーターと後輪ベルトドライブを組み合わせた、業界初の両輪駆動システム「デュアルドライブ」を搭載し、力強い走りを実現しました。

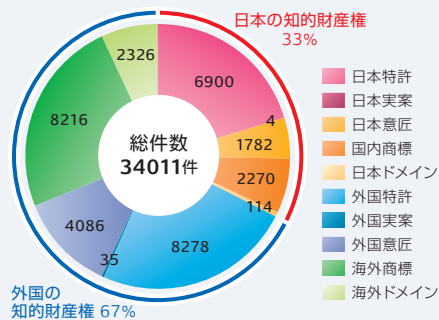


自転車用チャイルドシート
「RCS-S1」

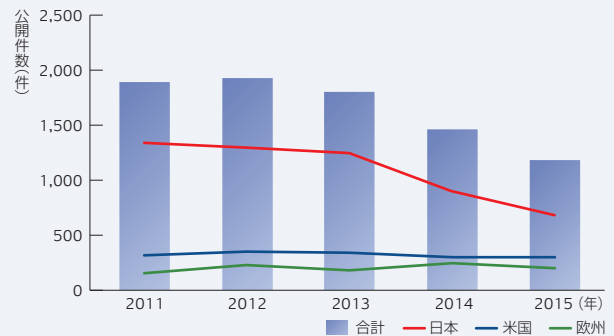
自転車後ろ乗せ用のオプションチャイルドシートです。幼児二人同乗基準を満たす十分な安全性とサイズを備え、かつ従来品よりも1kg以上の軽量化を図り、総重量3.1kgを実現しました。

資料

□ 知的財産権の総数(当社グループ会社※)



□ 特許公開件数の推移(当社グループ会社※ 日本・米国・欧州、2011年～2015年)

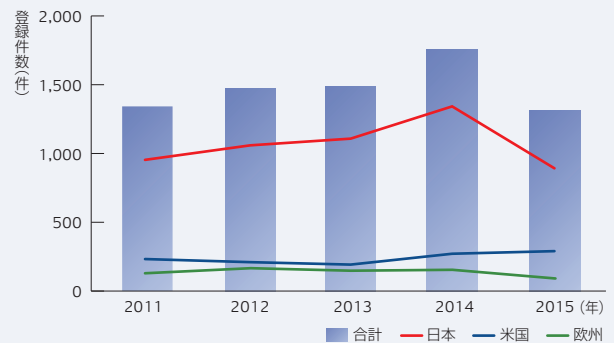


□ 当社特許権の活用状況

	(件)		
	タイヤ	多角化商品	合計
日本特許	4078	2064	6142
実施中	2195 (53.8%)	1057 (51.2%)	3252 (52.9%)
その他※	1883 (46.2%)	1007 (48.8%)	2890 (47.1%)
外国特許	5113	1239	6352

※ 将来実施予定特許、防御特許等を含む。
単体、2015年12月31日現在

□ 特許登録件数の推移(当社グループ会社※ 日本・米国・欧州、2011年～2015年)



会社概要

社名	株式会社ブリヂストン(BRIDGESTONE CORPORATION)
本社所在地	東京都中央区京橋三丁目1番1号
代表者	取締役 代表執行役 CEO 兼 取締役会長 津谷 正明
設立	1931(昭和6)年3月1日
資本金	1,263億5,400万円
従業員数	13,843名※
連結従業員数	144,303名※
主な事業内容	事業区分 内容

タイヤ	乗用車用、トラック・バス用、建設・鉱山車両用、産業機械用、農業機械用、航空機用、二輪自動車用のタイヤ・チューブ、タイヤ関連用品、リトレッド材料・関連技術、自動車整備・補修、タイヤ原材料 ほか
多角化	(化工品) 自動車関連部品、ウレタンフォーム及びその関連用品、電子精密部品、工業資材関連用品、建築資材関連用品 ほか (BSAM多角化) BRIDGESTONE AMERICAS, INC. が統括する屋根材事業 ほか (スポーツ用品) ゴルフボール、ゴルフクラブ、その他スポーツ関連用品 ほか (自転車) 自転車、自転車関連用品 ほか (その他) ファイナンス ほか

※) 2015年12月31日現在



第13回ブリヂストンこどもエコ絵画コンクール
ブリヂストン大賞 受賞5作品

株式会社ブリヂストン

広報部

東京都中央区京橋3-1-1 〒104-8340

電話 (03)6836-3333 FAX (03)6836-3184

<http://www.bridgestone.co.jp/>